

## 特集

- ・ 沖大の教職課程にせまる！
- ・ 就活報告2018
- ・ 平成最後の沖大祭

## 教職の沖大 現役合格者 過去最多



沖繩県教員採用試験に現役合格したこども文化学科の学生19名

### 学長コラム ⑬

#### ある剣道女子の話

仲地 博

その女の子は、母の胎内に運動神経を置き忘れたのか、マンサン（一歳の誕生日）のとき、つかまり立ちがようやくであった。小学校に入学した。最初の保護者面談から、母親はぶりぶりしながら帰ってきた。担任の先生に、「A子ちゃんは、何か筋肉が萎縮する病気にかかっているのではないでしょうか」と言われたという。これは怒る方が悪い。先生は、女の子の走り方があまりにも不器用で心配をしてくれたのだ。

中学生になった。女の子は、中学生は部活なるものをすると生真面目に考えていた。そして、剣道部に入った。剣道は走らなくてもいいからではなかったかと、後になって母親は思った。

運動神経はゼロどころかマイナスに近い子が、剣道で強くなれるわけがない。ところが学校を代表する正選手になってしまった。女子部員が5人しかいなかったのである。チームは4人で戦っているようなものだ。4人のうち3人が勝たなければ勝ち抜けない。監督は考えた。A子を相手の一番強い選手にぶつけよう。かくして、A子が大将を務め、チームは新人大会で優勝し新聞に写真も掲載された。

女の子の心情はよくわからないが、不得手のことを続けるストレスは大きかったのではないか。休部をしたり復帰したりしながら、高校を卒業するまで大将を務めた。

大学に入った。6年間やった剣道と縁が切れるのかと思つたら、また剣道部に入った。もちろん体育会系のものではなく同好会である。初心者に比べれば形はできていたのである。4年間でついに2段の免状まで獲得した。

見たわけではないが、履歴書には、「趣味剣道」と書いているに違いない。正体不明の団体からもらった二段ではない、日本剣道連盟の堂々たる2段だ。世間で「継続は力なり」というが、A子を見るとこのことわざは真実だとわかる。石の上にも三年ともいうが、能力が極めて乏しい分野であっても、10年根気よく続ければそれなりのモノになるのだ。

本稿を、沖繩大学の学生諸君に送り、私のコラムの最終回とする。

## 2019年 年頭挨拶



理事長 長濱 正弘

### 躍進の年を迎えて

明けましておめでとうございます。皆様方には希望に満ちた2019年(己亥)、平成最後の新年をお迎えのこと

の還暦を迎えました。節目に当たり2017年4月より記念事業に取り組んで参りました。記念事業の学食、歴史資料コーナーは6月9日の記念式典に併せてお披露

と、心よりお慶び申し上げます。昨年も沖縄大学に對しまして引続きご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年6月10日に沖縄大学は創立60周年の還暦を迎えました。節目に当たり2017年4月より記念事業に取り組んで参りました。記念事業の学食、歴史資料コーナーは6月9日の記念式典に併せてお披露

目することができました。同窓会、後援会、企業など多くの皆様のご協力に心より感謝申し上げます。学食は学生、教職員の間を繋ぐ重要な設備とメニューで、オープン以来大変好評を頂いております。60周年の節目に当たり、10年後(2028年)の70周年に沖縄大学が目指す長期ビジョン、OKIDAI VISION 2028を策定いたしました。地域がキャンパス地域のキャンパス沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります」と宣言いたしました。50周年に制定した沖縄大学憲章「地域共

創・未来共創の大学へ」の具現化に向けて、県はじめ市町村、地域の団体、企業、同窓会、後援会などと連携し、多くの方々のご協力を頂きながら教職員一丸となって取り組んで参ります。2014年から計画して参りました、管理栄養士を養成する為の新学部「健康栄養学部・管理栄養学科」は、昨年8月に文部科学省の認可を受け、いよいよ来る4月の開設を目指し最終の準備を進めております。教授陣は経験豊富な教育研究者、医療機関等での実務者を含め、年齢構成もバランスのとれた皆

様の就任が決まっております。また実習、実験設備専用の新校舎も完成し、開設に向け設備、器具・備品の設置を進めております。新学部のスタートを沖縄大学が躍進する絶好の機会と捉え、既存学部の尚一層の改革を迅速に進め、グローバル化の進展、ITの進化など変化の激しい社会のニーズに 대응する大学づくりを目指して参ります。



学 長 仲地 博

### 新しい希望の年へ

【沖縄で一番元氣な大学です】  
新年おめでとうございます。

校と提携した講座の充実など改革が進んでいます。それに相応しい名称への変更も検討中です。新しい名称は、地域デザイン学部が

沖縄大学は上り調子の中で、新しい希望の年を迎えました。4月健康栄養学部が開設します。県内で初めて管理栄養士を養成します。法経学科は、3コース制や卒論の重視、公務員予備

有力です。来年4月を予定しています。子ども文化学科は、教員採用試験への現役での合格者が19名という実績を上げ、教育現場や社会から注目を集めています。健康スポーツ福祉専攻も、教員採用試験に4名の合格者を出しました(3名沖縄県、1名は静岡県。中学の保健体育の教師への道は大変厳しく、270名が受験し、合格者はわずか12名。そのうち3名が沖

研究面では、「沖縄型福祉社会の共創」を掲げて、文部科学省に選定された事業が最終年を迎えます。「子どもの貧困研究と実践は沖大」との評価が定着しました。【70周年を展望します】60周年にあたり、沖縄大学は次の10年を見据え、「OKIDAI VISION 2028」を策定しました。これは沖縄大学憲章を深化・進化させるもので、10年後の沖縄大学の像を描き出そうとするものです。新しい大学像は、「地域がキャンパス、地域のキャンパス」を謳(うた)います。学生が地域をフィールドとし地域共創を

実践するとともに、地域の人々が大学に集い「知」と「人」の交流拠点となることを目指します。目指す学生像は、「大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーカー」です。OKIDAI VISION 2028は、沖縄大学の新たな共創への挑戦を掲げております。「学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学」です。創設者嘉数昇先生の著書を読むと、地域と共にある大学への熱い思いがあふれています。その変わらぬ思いが、また新しい沖縄大学を生みだしていきます。ともに頑張りましょう。

施設面では、アネックス共創館の整備と新学部棟の建築、テラス555(学食)のオープンと一段と充実しました。

実践するとともに、地域の人々が



# 沖大ブランド × 教職の沖大

## 学生が成長できる大学

2018年10月25日、沖縄大学教職員が毎年心待ちにしている報告がありました。沖縄県教員採用試験の合格発表です。

今年も過去最多となる19名の現役合格者の報告があり、中学校保健体育では卒業生が3名合格等、過卒生あわせると34名の合格報告が寄せられました。(県外の教員採用試験には、静岡県の採用試験に1名が中学校(保健体育)で合格しています。)

『教職の沖大』というブランドを創ろうと各学科と教職支援センターを中心に取り組んできた成果が着実に現れてきています。沖大の教職の力、魅力について徹底分析します。

### 教職の沖大①『カリキュラム』

沖縄大学の教職課程は実践力を第一に考えたカリキュラム設定をしています。沖縄大学の基本理念である「地域共創・未来共創の大学へ」を実現するために全学部共通科目を設置して、幅広い教養を備えて社会に通用する共創力を身に付ける科目の受講を基盤としています。教職に関する科目においては、1・2年次では教職という職業の本質や、今日の教職に求められている役割について考察する授業をはじめ、実際に学校現場での観察実習やインターンシップを通して、教師を目指す学生が継続的に学校に関わる仕組みが整って

### 【初等・中等版】

#### 2019年度実施教育実習希望者スケジュール

年	日時	実施内容
2018年 (平成30年)	7月13日(金)	【合同】第1回ガイダンス 教育実習の概要、予定、実習申込に関して(自己評価シートの作成)等
	7月25日(水)~27日(金)	教育実習希望者の申込み
	★9月21日(金)	【中等】基礎学力テスト
	★9月22日(土)	【初等】基礎学力テスト
	★10月5日(金)、 10日(水)、17日(水)	【中等】個人面接(口述試験 1人10分)
	★10月17日(水)	【初等】個人面接(口述試験 1人10分)
	10月9日(火)~11日(木)	【中等】再基礎学力テスト
	10月15日(月)	【初等】再基礎学力テスト
	10月12日(金)	【合同】第2回ガイダンス (実習先への事前訪問について等)
	10月15日(月)以降	実習予定者(一次合格者)の決定通知
	10月19日(金)	【初等】マナー講座
	10月26日(金)	【中等】マナー講座
	11月1日(木)~30日(金)	実習校への事前訪問
2019年 (平成31年)	1月予定(土)	【合同】公開模擬試験
	★2月9日(土)	【初等】模擬授業(国語または算数)
	★2月13日(水)~14日(木)	【中等】模擬授業(教科に関する) ・13日(水)、14日(木) どちらかで実施若しくは両日実施。 ・健康スポーツ福祉専攻、法経学科は両日(13日(水)~14日(木))実施。
	2月27日(水)~28日(木)	【中等】模擬授業(道徳または特別活動、学級活動に関する)
	3月4日(月)、5日(火)	【初等】【中等】再模擬授業
3月18日(月)以降	2019年度教育実習生 決定通知	

います。学校現場での学生の気づきや課題に対して、大学に戻り教員と解決していくことで実践力と継続する力身に付きます。

3・4年次では本格的な実習を前に、授業とは別に模擬試験や教員採用試験対策などがスタートします。また、学校現場で通用する力をつけるため、学力試験や模擬授業等、一定のレベルをクリアしてから教育実習へ進む課程になっています。学力だけではなく人間力も育みながら、最終的にプロとして通用する教員育成を目指したカリキュラムとなっているのです。



中等の模擬授業の様子(3年次の2月に教科に関する模擬授業と道徳又は特別活動、学級活動の模擬授業を課している。)

## 教職の沖大②『指導力』

沖繩大学の教職課程の講師陣は小中、高等学校で教鞭をとっていた先生方が多く、県内の教育機関とのパイプも強固です。2011年より近隣市町との協定を締結し、インターンシップ等の実習受け入れに関しても行政と共に進めています。その他、教科・教職科目指導においては、各分野の専門家による学習指導の基礎的な知識を身につける授業実践力を育成する講義を揃えています。教職課程は文部科学省の課程認定を受ける必要があります。沖繩大学は基準をクリアした教員養成機関であり、各分野の業績を満たした講師陣で質の高い学びを提供しています。

## 教職の沖大③『サポート力』

沖繩大学では学生の持つ可能性を伸ばす教育を心がけ、大学全体で学生を応援していきます。

入学前から在学生によるカリキュラム選択のアドバイスを始め、小さな大学だからできる一人一人の学生に合わせたきめ細かい支援制度が整っています。模擬試験への料金面のサポート、教員採用試験対策講座も大学が独自の過去問対策講座や2次対策講座を無料で開講しています。

また、学校現場で教職に携わる卒業

生が土曜日に集まり、学校現場の課題解決に向けた話し合いや教科指導の勉強会等も行っていきます。先輩たちの継続した学びを通して在学生も共に実際の教育現場の課題を考える機会が得られています。これは、教員採用試験で大きく役立ちます。難関の教員採用試験に向けて、大学生生活4年間で培った学びを試験で発揮できているからこそ現役合格者が増加しているのです。



3年次の教員採用試験対策講座（来年度に向け10月スタート）



教員採用試験2次対策講座（小論文、面接）



授業実践イベント（学校ごっこ）



教員採用試験2次対策（実技対策）

## 教員採用試験を振り返って

こども文化学科 4年次

大城 綾乃

（糸満高校出身）



平成30年度の沖繩県公立学校教員候補者選考試験、今年度は19名が現役合格を果たすことができました。先生方、職員の方、たくさんの方々の支えがあつての合格だと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は高校生の頃に、小学校の先生になるという夢をもちました。小学校の教員免許を取得できる大学を調べ、実践的な取り組み（インターンシップ、学校ごっこ、模擬授業大会）や教員採用試験に現役で合格することができる環境が整っている沖繩大学に魅力を感じ、進学を決めました。

大学生生活では共に学び合える仲間にも恵まれ、また、学科の行事を通して先輩方との関わりを多く持てたので、アドバイスを頂いたり、話を聞いてもらったりなど、とても助けられました。教育課程の面においては、1年生の頃から教育現場を観察する機会や、2年生で

は週に1回小学校にインターンシップに行く授業があり、現場の先生方から話を伺いながら子どもたちと関わる事ができ、とても良い経験になりました。また、グループや個人で授業を担当する機会も多くあり、人前で授業する力が着実に身につけていきました。その力は教育実習や教員採用2次試験にも生きていました。

私が教員採用試験の1次試験に向けて、本格的に勉強に取り組んだのは3月に入ってからでした。集中できない時や、模擬試験で思うような点数が取れなかった時には、仲間同士で励まし合いモチベーションを保ち、乗り越えることができました。

2次試験に向けては、約1か月間、朝9時から夜10時まで対策をしていました。短い期間で面接や模擬授業、マツト運動、ピアノなどの対策をしていたので精神的にも体力的にも苦しいものでした。

1次試験を突破して、ともに2次対策に取り組んだ19名が全員合格できたことは、本当に嬉しかったです。周りでもサポートしてくれた方々の力と19名で励ましながらい目標に向かえた結束力が実を結んだと感じています。

私は今後も感謝の気持ちを忘れずに、学び続け、子どもたちに寄り添うことのできる教師になれるよう努力していきたいです。

中学校・保健体育に合格した  
健康スポーツ福祉専攻の卒業生  
による対策講座スタート！

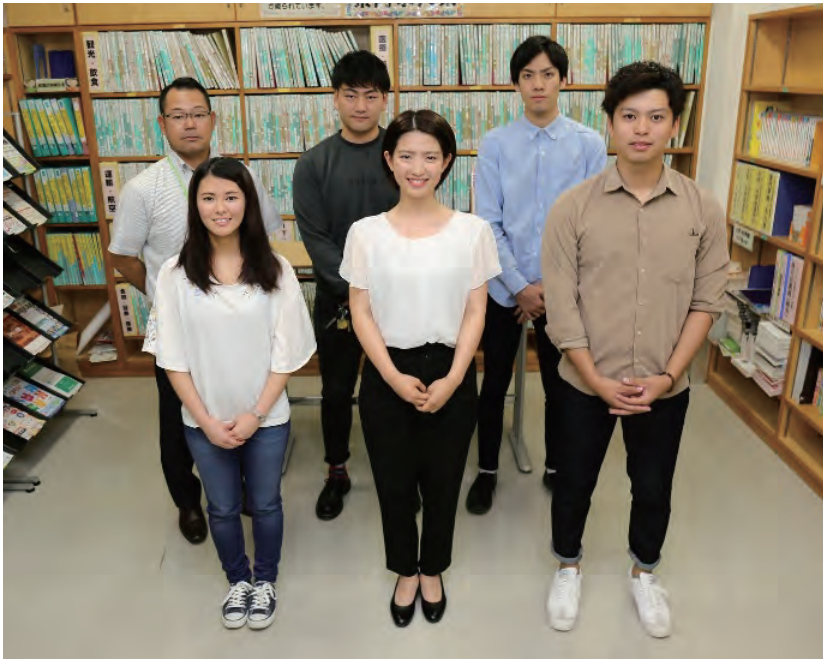
今回合格した卒業生が新たな試みをスタートさせています。

小学校の教員採用試験以上に難関の中学校保健体育で合格した卒業生3名による保健体育教師養成講座が12月8日土曜日から始まりました。講師をとめるのは健康スポーツ福祉専攻の卒業生、川上悠さん、前田貴太瑠さん、仲村兼太さんです。合格を勝ち取るまで4回の教員採用試験に挑戦してきた3名が自分達で作成したレディネステスの提供や講義、確認テストを実施していきます。川上さんは冒頭「私たちが合格できたのは、嘉数先生や上地先生、黒木先生のご指導のおかげで、先生方への恩返しのカタチがこのような講座になりました。自分達がこれまで勉強してきた全てをみなさんにはお伝えしていきたい。そして必ず来年度も沖縄県中学校保健体育教員を輩出することを目標に全力でがんばりましょう」と講座にかける想いを語りました。体育教師になるなら沖大！良い教員になるなら沖大！と後輩へメッセージを話してくれた3名。講座は2019年3月末まで計15回行われます。

	教職教養	専門教養
12月8日	○オリエンテーション ・採用試験に関する説明 ・レディネステスの実施 ・次時の報告	
12月15日	○小・中・高等学校学習指導要領(本文)に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時間講座内容に関する資料の配布	○中・高等学校保健体育科学習指導要領(本文)に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
12月22日	○教育関連法規(全国)に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○器械運動に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
12月27日	○教育関連法規(沖縄)に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○陸上競技に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
1月5日	○西洋教育史に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○水泳に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
1月12日	○日本教育史に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○球技に関する説明① ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
1月26日	○教育心理に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○球技に関する説明② ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
2月2日	○特別支援教育関連法規に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○武道に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
2月9日	○生徒指導関連法規に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○ダンスに関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
2月16日	○沖縄の歴史に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○体育理論に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
2月23日	○最新の教育時事に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布	○保健に関する説明① ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
3月2日	○これまでに学習した内容に関するテスト①	○保健に関する説明② ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
3月9日	○これまでに学習した内容に関するテスト②	○体育・スポーツ関連法規に関する説明 ○確認テストの実施 ○次時の講座内容に関する資料の配布
3月16日	○これまでに学習した内容に関するテスト③	○これまでに学習した内容に関するテスト①
3月23日	○これまでに学習した内容に関するテスト④	○これまでに学習した内容に関するテスト②



左から川上悠さん(浦添高校出身)、前田貴太瑠さん(中部商業高校出身)、仲村兼太さん(興南高校出身)



後列左から：大城貴之就職支援課長

山城大輝さん(法経学科 名護高校出身 株式会社琉球銀行に内定)

宮城海里さん(国際コミュニケーション学科 前原高校出身 おきぎん証券株式会社に内定)

前列左から：池村友香さん(福祉文化学科 陽明高校出身 イオン琉球株式会社に内定)

金城果結さん(こども文化学科 普天間高校出身 株式会社飯田ケーブルテレビに内定)

平川雄斗さん(福祉文化学科 具志川商業高校出身 沖縄防衛局に内定)

沖大生たちの就活報告  
2018年度就職活動も終盤を迎え、すでに来年度に向けた就職活動がスタートしています。今年度、夢を実現させ見事内定を勝ち取った学生の声を紹介します。

## 沖大ブランド × 就職の沖大

「なりたい」が  
力に変わる大学

「沖大No.1に就く」



### 山城大輝さん

(株式会社琉球銀行に内定)

就活開始時期 / 3年次、4月  
エントリー社数 / 4社  
内定時期 / 6月

県内の銀行を中心に就職活動を行いました。私は元々、県内の銀行に興味があったため、三年生の春頃から、銀行のことについて調べ、夏と冬にはインターンシップにも参加し銀行で働くイメージなどをつけていきました。銀行はSPIやスコアなど、面接の前に試験があるため、その試験の勉強は2月中旬頃から始めました。面接練習は、ハローワークや友人にお願いして、練習をしました。私自身、面接での受け答えに不安があったため、入浴中や寝る前などに頭でイメージトレーニングして本番に緊張しないよう準備しました。就活に必要なことは、常に準備を怠らないことだと思います。これはやっておいた方が良いのかと思うことがあれば、迷わずやった方が良いと思います。「迷ったらすぐ行動」、人生の中で就活は一生に一度しか経験できないので、悔いの残らないよう頑張ってください。

私が就職活動をスタートさせたのは、就職支援課が実施している就活合宿への参加からでした。この合宿では就活に必要な知識が学べ、心構えができました。一番苦労したのは、履歴書の作成や自己分析で、自分のことなのに、自分の強みは何か、弱みは何かなど頭を抱えました。何度も何度も就職支援課に足を運び相談や添削をしてもらうことで、これまで気づいていなかった自分を発見することができたことは、人生の中でも非常によい経験だったと感じます。就活のスタートは早ければ早いほど有利に進められると思います。また、自分の興味のない職種の説明会でも積極的に参加することで選択の幅も視野も広がります。



### 宮城海里さん

(おきぎん証券株式会社に内定)

就活開始時期 / 3年次、2月  
エントリー社数 / 4社  
内定時期 / 10月上旬

「就職に大事な事は  
「責任感」！」

就職に大事な事は「自分らしさを大切に」



### 池村友香さん

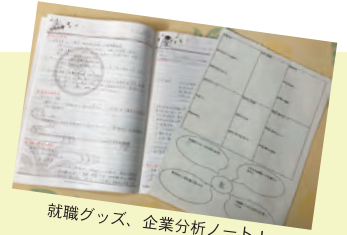
(イオン琉球株式会社に内定)

就活開始時期 / 3 年次、11 月  
エントリー社数 / 4 社  
(小売業、製造・販売)  
内定時期 / 6 月

私は、ぎりぎりまで民間企業か福祉職のどちらに就くか悩んでいました。そこで、両方の合同企業説明会に参加し情報を取り入れながら、自分が本当にやりたいことは何なのかを見つけながら就職活動をしていました。福祉の道には進みませんが、福祉で学んだことを接客に活かした仕事をしたいと思いました。

就職活動をする中で大切だと思った事が、将来を見据えながら行うことです。この会社に入ったらこういうことに取り組んでみたい、こういうことに挑戦してみたいという先を考えながら進めていくとイメージが付きやすく良いと思いました。

私は、就職活動を通して自分を見つめる良い機会になったと思います。たくさん悩んで自分のやりたいことをしっかり見つけながら頑張っていました。



就職グッズ、企業分析ノート！

就活は自分を試し知るんだよ



### 金城果結さん

(飯田ケーブルテレビに内定)

就活開始時期 / 3 年次、2 月  
エントリー社数 / 10 社  
(マスコミ関係)  
内定時期 / 8 月下旬

四年生になるまで就活か教員採用試験に迷わか迷っていた私は、勉強しながら企業説明会に参加しました。企業の人事担当の方との会話のなかで情報も増え、企業の雰囲気や自分の適性を知る材料を増やすことができ、進路決定ができたと思います。県外就活をするにあたっては、補助制度を活用して実際にその地へ足を運ぶことで、「この地で働く自分」を想像しながら就活できた事がすごく有り難かったです。就活をする上で一番苦しかった自己分析は、自分に正直になり、うまく伝える方法を就職支援課での面談で身につけて頂きました。そのおかげで自分のことを知ることができ、面接でも正直に冷静に受け答えができたと思います。中々結果が出なくても、最後まで諦めないで下さい。



就活グッズ  
スケジュール帳は必須！思いついたらすぐ書けるようなノートと、企業ごとに資料をまとめて入れられるファイルです！

勉強を始める前に意志を固めよう！



### 平川雄斗さん

(沖縄防衛局に内定)

就活開始時期 / 3 年次、6 月  
エントリー社数 / 3 機関 (裁判所事務官、国税事務官、国家一般職)  
内定時期 / 8 月 22 日 内々定 → 10 月 1 日 内定

私が、公務員試験の合格を目指してTAC(公務員予備校)に通い始めたのが3年次の6月でした。この時期から本格的に公務員試験の勉強をスタートさせたのですが、公務員試験は出題範囲が広くて最初は自分に合った勉強方法が分からない中で勉強を進めていました。合格した今だから言えることではあるのですが、公務員試験の合格には「情報力」と「効率性」が大切になってくると思います。公務員試験の合格には通常31科目分の勉強が必要なのですが、私は13科目の勉強しかしていません。過去問や問題集から公務員試験の出題傾向を分析し、削れる科目は削って最小限の勉強量で合格することが出来ました。出題傾向をしっかりと分析して勉強量を減らして合格を目指す勉強法も1つの攻略法です。



試験対策で使用していた問題集

## 沖大就職支援体制について

今回、紹介されている学生の皆さんは、自己分析や企業研究などそれぞれのスタンスでしっかり取り組んできました。

就職支援課では、経団連が設けた「就活スケジュール」にそって、3年次11月の「就活スタートセミナー」を皮切りに「自己分析」、「企業研究」、「履歴書の書き方」、「面接 マナー対策」などの各種セミナーを開催し、3月の企業説明会(広報解禁に向けて準備を行っていきます。また、毎年2月には、2泊3日の「就活合宿」を本島内で実施し、翌月の3月には、「県外就職合宿 in 東京」を実施しています。両合宿とも各講師による講座やワークなどを通して、内定を勝ち取る術を学んでいきます。3月には、合同企業説明会などの会社説明会が学内外で連日開催され、多くの就活生が会場へ足を運んで志望企業を探していきます。また、就職支援課には「キャリアアカウンセラー」が3名常駐し、企業探し、履歴書添削、各種選考対策など様々な就職相談をマンツーマンで対応していて、利用者からは好評を得ています。

近年、就職戦線は、「売り手市場」と言われていますが、気を抜いた就職活動では、なかなか志望企業からの内定獲得は叶いません。また安易な企業選びは、後の離職へと繋がる可能性もあるとも言われています。企業の人事担当者からも認められるような就活への姿勢、明確な目的の設定が大切です。

経団連による新卒採用の就職・採用活動の「ルール廃止」方針が示され、就職活動の早期化や学業への影響を懸念する声が上がっているなか、身近な先輩の経験談を基に情報収集を早めに行うことでチャンスは広がるはず。また卒業生が就職先で評価を得ることができると今後後輩の進む道を広げ、強固なものにしていくと考えます。

大学のキャリア支援をフル活用して、納得できる就職が果たせるよう、一緒に頑張っていきましょう。就職支援課は全力でサポートしていきます。(就職活動を行う現在の大学2年生から対象)

(就職支援課課長 大城貴之)



11月3日(土)AM9:00



あいにくの雨、  
萌さんの笑顔も…

今年の祭りのテーマは『LOVE』、  
西新宿にある LOVE のオブジェ  
そっくりの物を作りましたが、  
オブジェも雨宿り…

『最高の沖大祭にしよう!』オー!



AM10:20 賑わう教室がありました!



沖大小中学校開講!



地域の小学生たちが参加。  
様々な工夫を凝らした授業に  
子ども達は興味深々でした。



上地ゼミによる  
デイサービス運動会も  
開幕です。



PM2:00 ホワイエに場所を移して  
**ステージイベントが  
スタート!**



2018年11月3・4日、平成最後の  
沖大祭が開催されました。

初日は雨のためステージリハーサルが中止  
となるなか、実行委員の努力と出展団体、参  
加者の「沖大祭を楽しもう!」という気持ち  
が融合して、祭りを大いに盛り上げ、笑顔溢  
れる2日間で、幕を閉じました。沖大祭を企  
画し成功させたいと人一倍熱い想いで取り  
組んでいた実行委員長の具志堅萌さんに沖  
大広報カメラが密着しました!

11月2日(金)AM9:00



実行委員長の最初の仕事は学園祭に  
係る支援金を頂いた嘉数後援会長への  
お礼訪問からスタートしました。(企画、  
そして装飾作りなどは6月から実施、  
開催10日前からは夜も準備に追われ  
ていました)

大学に戻ったら  
土嚢作りに!



**前夜祭スタート!**  
実行委員はミーティングに  
余念がありません。その後  
翌朝まで装飾の準備に・・・。



### 沖大祭を終えて

沖大祭実行委員長 (法経学科2年) 具志堅 萌  
(宜野湾高校出身)

私は沖縄大学に入学した当初から「沖縄大学を県内で一番盛り上がっている大学にしたい」「沖縄大学を変えたい」という強い想いがありました。なので今年の実行委員長を務め、6月から準備をしてきました。実行委員長として一番大変だったのは今回の実行委員メンバーが1、2年生中心だったため、全て手探りでスタートさせなければならなかったところです。どんな沖大祭にしたいのか、理想の沖大祭ができるように何回もミーティングを重ね全員の意思を固めていくところからでした。その話し合いの中で今年は参加する沖大生が楽しめる祭りを目指したいと方向性が決まり、参加者を広く募集するためにお昼休みに沖大祭のPRを行ったり、グルメコンテストを行い景品を出すなど、出店団体が増えるような工夫も試みました。メインイベントには、県内学園祭初の「泡パーティー×バルーンパーティー」を計画し、それを目当てにたくさんの来場者を集客することができました。風向きなど想定できないことも多々あり、会場を走り回ってばかりいた私ですが、初めて会う人たちが、笑顔で一緒に踊ったり、歌ったり、肩を組んで写真を撮ったりしている姿を見て、理想の沖大祭が実現できたと実感すると共にとても感動したのを覚えています。

平成最後の第59回沖大祭、沢山の人に沖縄大学の魅力を発信できたのではないかと思います。来年は60回目の記念すべき年になります。今年以上に沖大生を巻き込んで沖縄大学の魅力をもっと発信していきます。



実行委員長あいさつ



すぐに片づけへ!



お疲れさまでした!



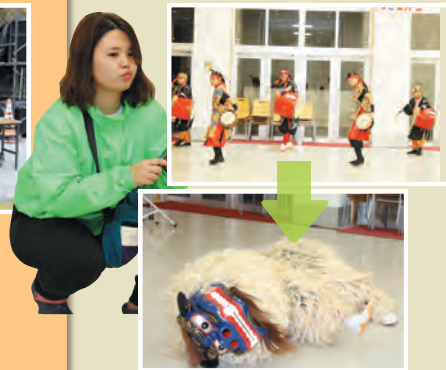
泡マシンはミスターに選ばれた大城一斗さんが操縦!



あと少し...と思うと、おもわず涙も...!



メインイベントへ向け準備!



↑ 1日目無事に終了!

11月4日(日)AM9:00

お天気に恵まれた  
2日目  
会場準備に追われ  
スタートです!



本日もこども文化主催  
沖大小中学校は大盛況!



2日目のオープニングを飾った、那覇高校ダンス部!

## 関東学院大学 × 沖縄大学

2017年に締結した「沖縄大学と関東学院大学における大学間交流に関する協定」、初年度となる今年は本学から1名が派遣され、関東学院大学からは5名の学生を受け入れています。短期のショートプログラムとして夏季休暇中に開催された講義には関東学院大学から6名(提携大学最多)が受講に訪れました。

また、関東学院大学とは学生相互派遣の他に、これまで他大学との協定にはなかった職員の相互派遣が含まれ、関東学院大学からは釜井翼さんが教務課へ、本学からは名嘉夏芽さんが派遣されました。

### 沖縄ショートプログラムに参加して

関東学院大学 法学部地域創生学科 2年  
高橋 夏美

私が沖縄大学でのショートプログラムに参加を決めた理由のひとつは、沖縄に行ったことが一度もなかったからです。

短い期間でありながら、沖縄の歴史、自然、社会問題、経済について学べる他、南部から北部まで実際に目で見て感じることでできるプログラムはとても魅力的でした。

中でも、3日目の沖縄の自然についての学習で、担当の盛口先生と森やマングローブを実際に歩きながら「あれは何ですか?」「これは何の仲間ですか?」と生き物

を見つけてはみんなで集まって観察したのが特に印象に残っています。私は神奈川県出身ですが、今まで見たことがないくらい大きなカタツムリやナメクジを夜の森で見てとても驚きました。

もっと沖縄のことを知りたくなる魅力いっぱいのプログラムでした。また是非、沖縄に行きたいです。



地域の経済と産業講義。金武の田芋を昼食にいただきました。(著者：左)



沖縄の自然講義「大浦川のマングローブ林」

### 充実した3ヶ月を振り返って

関東学院大学 教務課 釜井 翼

三ヶ月間、ありがとうございました。

出向が決定したのは今年の5月頃、事務職員の相互派遣制度の話は知っていましたが、まさか私自身がその対象者になるとは思ってもいませんでした。

いざ出向が間近になると、関東学院大学からの代表とは言わずとも、単身で他大学の勤務にあたるということ、初の相互派遣制度で、今後の大学交流にとって重要な役割を担っているということに重圧を感じるようになり、希望や期待というよりも、不安の方が上回る状況になっていました。

しかし、出向初日の辞令交付式において、理事長、学長をはじめ事務局長、各課の課長がお忙しい中お時間を割いて盛大にお迎え下さり、三ヶ月間、沖縄大学の職員として精一杯努め、一つでも多くのことを学び、経験させていただくだけではなく、関東学院大学で参考になる情報があれば存分に提供させていただこうという気持ちが湧き上がってきました。

沖縄大学での勤務が始まってからは、教務課の職員として履修登録、成績管理、教育職員免許状一括申請の業務を中心に担当させていただきました。関東学院大学とはシステムや処理の流れが異なり、非常に多くのこと

を学ばせていただきました。また、成績管理の処理を私一人にお任せいただき、私としてはお客さんや研修ではなく、課員の一人として扱っていただいているようで、とても嬉しく、一担当として仕事のやりがいがありました。手を抜かず処理してきたつもりですが、名嘉さんがお戻りになられて色々至らない部分が出てきてしまいましたら申し訳ありません。

私はこの三ヶ月間、沖縄大学におかせていただき、職位や部署、勤務年数に関わらない、教職員間の仲の良さをたくさん感じる事ができました。三ヶ月間しかいない私に対してもとても暖かく接していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ沖縄でたくさんのことを勉強したいですが、ひとまずこの三ヶ月で学ばせていただいたことを関東学院大学へ持ち帰り、また皆さんと笑顔で再会できたらと思います。

三ヶ月間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。沖縄大学のこれからの益々のご発展を一人の仲間としてお祈りしております。ありがとうございました。



(左：安里課長、右：著者)



### 沖縄大学でお気に入りの場所 (釜井 翼)

出勤の時も、退勤の時もこの教務課横の階段からみる景色は大好きです。

天気の良い日は特に眺めもよく、真っ青な空をみると、今日一日頑張ろうという気持ちになり、退勤時は沖縄は暗くなるのが遅いので、まだまだ明るい景色をみながら、帰ったら何しようかなと気持ちの余裕が生まれたりします。毎朝、毎夕みていた景色、ぜひまた眺めに伺いたいと思います。

## 職員交流第一号として

沖縄大学 教務課 名嘉 夏芽

職員相互派遣の話を最初に頂いたとき、希望している職員を優先にしたら良いのではと思いましたが、よく考えてみると、他大学に長期間在籍し、通常の業務に携わるという経験はなかなかない機会だと気づき、前向きに受けることにしました。周囲からは「大変だね、頑張ってるね」と声をかけられましたが、職員交流第一号で前例がない分、あまり気負いもなく有意義に過ごせたと思います。

関東学院大学は、学生数が沖縄大学の約5倍で、教職員も大勢います。こちらの職員に聞くと、顔も名前もまったく知らない教職員がたくさんいるそうです。ミッション系の大学ですので、クリスマスシーズンの今は、学内のあちこちにクリスマスの飾り付けやイルミネーションが施され、寒い気候と相まって、沖縄大学では味わえない雰囲気を楽しんでいます。

こちらでは、経済・経営学部担当の教務課で、通常の教務課業務を中心に、入試、父母懇、学院コンサート等の様々な学事にも関わりました。関東学院大学の一職員として業務に当たっていますので、短期の研修では踏み込めない範囲まで勉強することができていると感じています。毎日、沖縄大学でのやり方や関東学院大学のやり方を周囲と話しながら仕事を進めることで、参考にしたい具体例がたくさんありました。

特に勉強になったのが、単位修得や生活に問題を抱える



教務課の忘年会にて

学生へのサポート体制です。関東学院大学では、毎学期、このような問題を抱える学生をゼミの教員が面談しています。教務課で面談対象の学生を抽出、面談シートを作成し、学部と協力して一人ひとり面談します。これにより、学生の状況を事務側と学部側が共有し、退学防止、学生生活満足度の向上に繋がっています。また、このような面談から得られた情報等は、教学IRを主管する大学経営課が取りまとめて分析しています。こういった取り組みは、沖縄大学で現在重要課題になっている退学防止策の参考例として、ぜひ持ち帰り報告したいと思います。

関東学院大学での研修も残り一週間となりました。最近では、心残りがないように時間を惜しむ毎日です。(寄稿日 2018年12月20日)



## 関東学院大学との人事交流を終えて

沖縄大学 教務課長 安里 賢吾

神奈川県にある関東学院大学と沖縄大学は、2017年6月に大学間交流に関する協定を締結し、以後様々な交流が進んでいます。今年度は、10月1日から12月31日までの期間、沖縄大学教務課の名嘉夏芽さんを関東学院大学に派遣し、関東学院大学の釜井翼さんが沖縄大学教務課で勤務するという3か月間の人事交流が行われました。

関東学院大学は、学生数が1万人を超える大きな大学ですので、沖縄大学から派遣された職員は、大企業のような大きな組織での物事の進め方や考え方、またその規模観を肌で感じてほしいと思いましたし、釜井さんに

つきましては、小さいながらもキラリと光る何かを沖縄大学で見つけてもらいたいと思いながらのスタートでした。人事交流を行った本人達はもちろん良い機会であったと思いますが、部署を預かる立場としては、他大学の職員を受け入れるための体制づくりや、釜井さんにどのような仕事をやってもらうか、名嘉さんが担当していた業務を残る誰が担当するか等、部署に残る我々にとってもよい機会であったと考えています。

人事交流については、良い制度であると思いますので、他部署においても実行できる事を期待しています。

また、学生の皆さんにつきましても、学生同士の派遣(国内留学)制度があります。2019年度の募集は終了しておりますが、2020年オリンピックの年に、県外での学生生活を考えてみてはいかがでしょうか！

「先生、面白い授業を教えてください」  
「何か子どもの興味を引けるようなネタはないですか」  
この言葉は、模擬授業や教育実習の準備のために研究室を訪ねる学生がよく口にします。その時の私の対応は、「面白い授業はたくさんある。紹介もできる。でも、その授業がなぜそのような授業になったのか、その先生はなぜこの授業をしたのか、それを理解しなければ意味がない」という話をします。すると、大抵の学生は不満そうなる顔をしながら、「自分で考えます」と言って部屋を出ていきます。学生たちは、どのような授業を目標しているか、どのような授業をよんでいるか、どのような授業の実現に価値を見出しているのか、など自分自身の「授業観」が確立していないため、とりあえず「おもしろい授業」を実践したいと考え、その方法を求めてきているのだらうと思います。

ところで、教員の資質能力の向上には、その入り口段階である教職課程の質保証や質的水準

### 研究のひろば

## 教職課程の質保証と教師教育研究



福祉文化学科 准教授  
嘉数 健悟

の向上が求められています。では、教職課程の質保証にはどのようなことが求められているのでしょうか。それは上述した学生たちの声に依る研究、つまり、教師教育研究の実施です。例えば、「先生、面白い授業を教えてください」という学生には、「4年間の教職課程のカリキュラム中で、『おもしろい授業』とは『こういうことだ』、『私はこう考える』という理論と実践に支えられた土台（『授業観』）を教職課程の授業を通して形成することが重要になります。そのため、私は教職課程における学生の学びの実態を明らかにし、そのエビデンスを基にした教職課程のカリキュラム開発を行い、教育実習を含めた授業科目と関係付け、学生が何をどう学び、何を身につけたのかという視点から研究を行っています。」

教職課程を有する大学の中には、授業において教員採用試験の対策をしていたり、理論的背景を理解せずに模擬授業を実施したりなど、教員養成教育の水準が担保されていない事例もあります。教職課程の質保証のためにも、教員養成教育の基盤である学術研究とそれを土台とした教育実践したいと思えます。



わがゼミナール  
実際に現地を見て考えることを  
通して、地域を見る目を養う

法経学科 准教授 糸数 哲



飼育員の説明を聞きながらヤンバルクイナの観察をするゼミ生

地理学的視点で現地を見て、地域の現状を把握するとともに地理学のこれからについて考えることに取り組んでいます。地理学とは、自然環境や社会環境と人間活動（生活文化）とのかわりについて考える

学問で、各種環境に関する知識だけでなく、人々が環境にどのように適応し、環境をどのように利用しているのかについて考える学問です。まず、沖縄本島中部の高台から沖縄本島南部・中部・北部の地形を観察した後に文献調査を行い、沖縄の地形的特徴について学びます。次に、沖縄本島南部において、沖縄の特徴的な地形である石灰岩地形を観光資源として利用している施設を見学し、既存の環境の活用事例について学びます。沖縄本島北部では、やんばるの森や石灰岩地形を観光資源として利用している施設を見学し、南部で見学した施設との立地条件の違いなどを確認し、利用者（北部地域への来訪者）の増加につながる方策について考えます。また、ヤンバルクイナ生熊展示施設を訪れ、環境保全の必要性について学びます。さらに、共同売店を訪れ、過疎地における人間活動の現状についても学びます。北部地域の見学にあわせて、北部地域をまわるツアーを企画することにチャレンジしていきます。ゼミ生には、これらの活動を通して、地域にある様々な資源に目を向け、環境保全の意識を持ちつつ資源を活用

する力を伸ばして欲しいと考えています。ゼミ生からは、「普段気にしていなかった自然にも興味を持つようになった」「沖縄の特徴を活かした観光業についてさらに知る必要がある」「沖縄にもっと関心を持って、世界の人に沖縄を伝えていきたい」「野外観察では、ただ見るのではなく、どのようにできているのかを観察する意識を持つようになった」「過疎地域での問題を考えることができた」などの意見・感想が寄せられ、地域を見る目が養われているのを感じます。今後は、県外や海外での現地観察および沖縄との比較を通して、沖縄の地域的特色についてより深く知ることができ、ゼミ活動を計画しています。



自然環境を観光資源として活用している施設の見学（著者：右）

## 法教育への処方箋

法経学科 講師

矢島 秀和

法教育とは何だろうか。法務省によれば、「法律専門家ではない一般の人々が、法や司法制度、これらの基礎になっている価値を理解し、法的なものの考え方を身につけるための教育」のことであるという。要するに、法的な思考力を獲得し、個人を尊重する自由で公正な民主主義社会の担い手として



活躍する人材を育てるのが、法教育というものといえる。しかし、そのような人材は、どのような教育をすれば育てることができるのか。これは法教育に携わる者に共通する悩みだろう。去る9月2日に明治大学駿河台キャンパスにて開催された「法と教育学会」は、このような法教育における悩みへの処方箋を提供してくれたように思えた。

午前は、分科会の報告をいくつか聴いてきたが、紙幅の都合上、その中で印象に残っているものを1つ取り上げたい。それは、大学生が消費者教育に関する教材を作成し、それをもとに中学や高校で出前授業を行うことで、中学生・高校生のみならず、大学生自らも法的リテラシーを学ぶことができたという報告である。これには、なるほどと頷いた。お

笑いコンビ「ロザン」の菅広文さんの著書に『身の丈にあった勉強法』（幻冬舎、2017年）という本がある。本書の中で菅さんは、学力を伸ばす方法として、「エア授業」が効果的と説いている。これは、自分が勉強したところを、先生になりきって自分に授業をするというものだ。『エア授業』をすることで、理解が不十分なところが炙り出されるのと同時に、覚えたことをアウトプットすることで、さらなる知識の定着にもつながる。前記の報告は、それを法教育の場面で実践したということであるが、まさに、「教えることは学ぶこと」である。なお、この菅さんの本はゼミ生にも読ませてみたところ、勉強法が分かったと大変好評だった。（図書館の方、是非購入を検討してください！）

午後には、「資質・能力の育成と法教育・模擬裁判を題材に」をテーマに、参加者を交えたパネルディスカッションが行われた。全体の議論の前に、数名のパネリストから報告があった。いずれのパネリストの報告にも共通することは、模擬裁判が法教育にとつて顕著な

効用を有するという点である。日弁連が主催する高校生模擬裁判選手権に参加するためには高校の先生が指導を行ったところ、模擬裁判は、高校生がPIISA型学力（知識や経験を活用して、実生活のさまざまな場面で直面する課題について、自分で積極的に考える能力）を備えるのに貢献したという。これ以外にも、高校生が模擬裁判を通じて学べることで、物事を多角的に理解する能力、実際の法律の知識の獲得、深い人間理解、裁判傍聴で社会の一面を知る、文章をまとめる力が身につくといった点が挙げられていた。中学生・高校生を対象とした法教育に関するパネルディスカッションであったが、このような模擬裁判を通じて獲得できる素養は、大学教育においても求められるものである（もつと言えれば、人間として普遍的に求められる素養といえる）。

居高に判例や学説の考え方を説いたり、法律知識の詰め込みをするのでは、学生はほとんど法律から離れていき、ひいては健全な民主主義が機能しなくなってしまう。むしろ、そのような教育は、本来あるべき法教

育の対極のものではないのか。「法と教育学会」が示してくれた処方箋を手掛かりに、本学でも学生に法的素養を身につけさせる教育ができないものか。本学の学生が、中学や高校で出前授業をし、それがうまくいけば本学の評価向上にもつながるのではないか。帰りの電車の中で、このような崇高なこと(?)を考えていたら降りる駅を乗り過ごしてしまっただけの話。

「ファカルティ・デベロップメント(FD)」とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。

本学は、FD活動を企画立案し実施するFD委員会を置き、教員の教育能力の開発・向上に努め、その質的充実を図る取り組みを進めています。

中長期経営計画では「魅力ある授業の創造」を掲げ、学生が主体的に学び学習する魅力的な授業づくりとカリキュラムの改善に特に力を入れて取り組んでいます。

本シリーズ「FD見聞録」では、そうしたFD活動を紹介していきたいと思っております。

**辞令交付式 (10月1日)**

沖縄大学と関東学院大学で締結した大学間交流に係る職員の相互派遣の協定に基づき、釜井翼さんが3ヶ月間本学教務課へ配属されました。両大学の事務職員の能力開発をもって、大学組織の発展に寄与することを目的としています。

**学P 沖縄リーグ2018 販売金額部門 1位獲得**

学長も『元気勝ち鶏丼』美食!

県内7大学がアイデアとチームワークで商品開発をして、販売数を競いあう「学P沖縄リーグ2018」。

10月2日から15日までの期間中、沖縄大学チームがプロデュースした『元気勝ち鶏丼』は見事販売金額部門で1位を獲得、3年連続好成績を収めることができました。

**第3回 オープンキャンパス**

10月27日、第3回オープンキャンパスを開催しました。

学生トーク、学科タイム、作文・小論文対策講座等が行われ、在学生を中心としたオープンキャンパススタッフや本学教員と高校生が様々なかたちで交流をしました。毎回趣向を凝らした演出に、参加者も楽しみながら沖縄大学への理解を深めているようでした。

**教職合同研修会 (8月8日)**

沖縄大学では毎年、教員・職員合同で取り組むべき課題等に関する研修を行っています。今年は全学的な内部質保証への取り組みについて大学基準協会の工藤潤事務局長をお招きしての講演や、ハラスメントのない職場環境をと題して御輿久美子先生による講演、また2021年からはじまる入試改革に向けたテーマを取り上げ、共通認識を図りました。

**体育競技部大掃除 (8月10日)**

夏季休暇初日、沖縄大学体育競技部に所属する学生、総勢100名で、体育館や運動施設を中心に清掃を行いました。日頃、大学より大会参加費などの支援を得ていること

もあり、大学施設を大事に利用し、競技の技術面、精神面も逞しく努めようと定期的にも実施されています。

**2019年4月開設  
沖縄大学健康栄養学部管理栄養学科  
記者発表 (8月29日)**

沖縄大学が設置認可申請をしていました「健康栄養学部 管理栄養学科」が、文部科学省(8月31日付け文書)より認可されることが決まり、県内マスコミへの記者発表を行いました。

**沖縄大学9月卒業式 (9月21日)**

沖縄大学9月卒業式、大学院修了式が開催されました。

学部生10人、大学院生1人が卒業、修了を迎え、仲地博学長より卒業、修了証書が手渡されました。

## OKINAWA UNIVERSITY ■ News &amp; Topics

**2018年度 中国語発表会 (10月27日)**

沖縄大学国際コミュニケーション学科・中国語コースでは、昨年より中国語発表会を開催しています。今年は日本中国語検定協会理事長の上野恵司先生の講演会をはじめ、各中国語クラスの発表(歌、ダンス、短劇、演奏、スピーチ等)、そして中国文化に触れるイベントとして中国茶道体験、民族衣装試着、中国語買い物ゲームなども企画していました。

中国からの留学生を審査委員として各クラスの得点を競い合った結果、中国語スピーチを行った玉那覇貴子さん、上地英理奈さん、吉田光さん、島袋敏貴さんが1位に輝きました。

**沖縄大学創設者  
嘉数昇先生胸像除幕式 (11月26日)**

沖縄大学を創設された嘉数昇先生の功績を後世へと伝えるために、本学の歴史がスタートした11月26日にあわせて、嘉数昇先生の胸像を設置、除幕式が開催されました。1956年11月26日は嘉数学園が当時の琉球政府より設置認可された日です。除幕式には、同窓会会員や大学関係者などおよそ30名が参加、戦後の混乱期に人材育成、教育の大切さ等について熱い思いでご尽力された創設者に想いを馳せました。

**冠奨学金授与式開催 (8月6日)**

冠奨学金は、経済的な修学環境を改善し、学業成就、将来の地域社会への還元を目的に、沖縄大学後援会の協力の下、2001年に創設されました。創設当初より、県内企業の皆様、個人の皆様の心あたたまるご支援を頂きながら、継続支給されています。今年度は、本制度に企業、個人、宮古・八重山地区有志会、同窓会支部有志の皆様から991万円ご寄付を賜り、30名の学生に寄付者のお名前を冠して奨学金を授与することができました。

**2018年度保護者懇談会**

学生の支援及び保護者との連携を密にきめ細かな学生支援を行うための保護者懇談会が、後援会、同窓会の協力の下、県内5会場で開催されました。

今年度は、久米島地区(8/30)、宮古地区(9/5)、八重山地区(9/6)、北部地区(9/11)、中南部地区(9/15)の5地区で実施しました。

面談会では、保護者の皆様と教職員が学生の就学状況や課外活動、家庭での過ごし方など、お互い普段目にする事ができない情報を伝え、意見交換を行いました。また、面談会終了後の懇親会では、保護者と教職員だけでなく、後援会、同窓会と幅広く交流を行うことができました。

# 大学職員生活を通して

経営企画室 名幸 妙子



ミレニアムに入職して、早いものでもう19年が過ぎようとしています。当初は、家族に「課長と部長ってどっちが偉いの？」「賞与月に月給も入っていたけど、経理課の人に言ったらほうがいいのか」などと質問し大笑いされたものです。月給の代わりに賞与が出ると思っていたのです。この間、入試広報室→図書館→地域研究所と異動し、現在は経営企画室に配属されています。この職種の特異性は、異動がほぼ「転職」になってしまうことです。図書館で本を並べていた翌週には、地域研究所主催のイベント調整で離島に出張していたこともありました。

また、「大学」という職場に就職した幸いの一つが、図書館があるということでした。幼少時より人付き合いが苦手なため、本が一番の友達でした。今でも新刊図書コーナーの前に立つたびに、この環境で働けることを嬉しく思います。大好きな友を数冊紹介させて頂きます。まず初めに『旅をする木』星野道夫著。これは私の座右の書でもあり、忙しく心に余裕が持てない時の拠り所にもなっています。物理的な壁を超えた、動物と人との間で通じる固有の体験描写はとて心

が和みます。次に『あるがままに自閉症です』東田直樹著。東田さんは、重度自閉症の作家です。この障がいを持つ方は総じて、他者とのコミュニケーションが困難な傾向があります。しかし東田さんは、私たちと同じように（もしくはそれ以上に）、心の中・頭の中は、こんなにも豊かで深いことを伝えてくれます。彼は「命」についてこう述べています。「命というものは、大事だからこそ繋ぐものではなく完結するものだ」。某国会議員が発言した「生産性」とは正反対の考え方です。一部の学生さんから「在学中に何か成果を出さなくては」と自身を追い詰めているような話を聞きます。もちろん目に見える結果を残すことは素晴らしいことですが、その頑張った過程も、もっと大切にしてみようのでは、と東田さんの視点は教えてくれているような気がします。

大学職員生活も折り返し地点に入りました。楽しいこと、辛いこと、様々な経験を経て、社会常識が乏しい私を育ててくれたこの場所には感謝の念に堪えません。また、学生さんたちに学んでほしいことは、私たちに求められていることに、ほかありません。一緒にこれからも成長していけたら幸せです。今回は、太陽のような存在でみんなを照らしてくれ

る田代真紀さんにバトンをお渡しします。

## 沖縄大学創立60周年記念事業資金のための募金活動状況

沖縄大学は2018年6月10日に創立60周年の節目を迎えました。その記念事業として、学生食堂の新設、教育・研究環境の整備等に取り組んでいます。今般、広報誌の発刊に際し、2018年8月1日以降（12月14日現在）に受け入れた募金についてご報告し、改めて御礼を申し上げます。本件掲載分については、広報誌等への掲載へのご了解が確認できた企業名・ご芳名を報告させて頂いております。なお、引き続き寄附金を募集しますので、特段のご芳情を賜りますようお願い申し上げます。（5千万円を目標に寄附金を募ります。）

2018年8月1日から2018年12月14日までのご寄附企業名 及び ご芳名		金額単位：円	
<b>■企業・法人・団体</b>		<b>■本学教職員・学生</b>	
ご芳名	金額	ご芳名	金額
琉球セメント株式会社	500,000	仲地博	200,000
国場自治会	100,000	山口満	100,000
有限会社 書苑	10,000	山代寛	100,000
<b>■後援会関係者（在学生の保護者等）</b>		真啓實	40,000
ご芳名	金額	小野弘	30,000
島袋尚博	50,000	森田泰	25,000
上原弘	10,000	上地城	20,000
大城志	5,000	上金木	20,000
比屋根要	5,000	玉城城	20,000
松原達	5,000	宮城城	20,000
森山敦	5,000	金城林	15,000
<b>■同窓会関係者</b>		若天久	10,000
ご芳名	金額	飯田大	10,000
崎濱喜	100,000	糸数晃	10,000
高良謙	50,000	上原周	10,000
高良マ	50,000	王志	10,000
幸地博	30,000	大城司	10,000
富真京	20,000	金城慎	10,000
徳額春	20,000	島袋志	10,000
謝花美	10,000	島袋村	10,000
玉城舞	10,000	島比嘉	10,000
友利浩	10,000	浜比嘉	10,000
長額千	10,000	比嘉	10,000
謝名	5,000	松木健	10,000
ご芳名	金額	吉本篤人	10,000
大城純	50,000	大貴之	6,000
友寄英	50,000	大金陸	6,000
<b>■一般個人</b>		福安里	6,000
ご芳名	金額	安田賢	6,000
玉城祥	5,000	新垣吾	5,000
城城紀	5,000	池田真	5,000
里村介	5,000	石川貴	5,000
麻子子	5,000	伊藤光	5,000
二里	5,000	上江原	5,000
子泉	5,000	上洲数	5,000
司貴	5,000	嘉兼島	5,000
奈奈	5,000	神龜和	5,000
和也	5,000	谷千惠	5,000
子也	5,000	吉正	5,000
真真	5,000	黒木成	5,000
麻衣	5,000	列木	5,000
<b>■一般個人</b>		幸喜	5,000
ご芳名	金額	古座文	5,000
大城純	50,000	後藤哲	5,000
友寄英	50,000	志良	5,000
<b>■一般個人</b>		朱代	5,000
ご芳名	金額	田原	5,000
大城純	50,000	棚木	5,000
友寄英	50,000	吉本篤	10,000

総額 32,931,400円 総額については、2017年4月3日からの積算募金額です。